

第1回美里町立小学校統合準備委員会次第

日 時：令和6年5月30日（木）
午後2時30分～
会 場：美里町役場 2階201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 委嘱状の交付

4 自己紹介

5 委員長及び副委員長の選出について

6 議 事

(1) 美里町立小学校統合準備委員会について

(2) 小学校統合に関するここまでの経緯について

(3) 今後の検討内容について

(4) その他

○次回

第2回美里町立小学校統合準備委員会

日程 … 令和6年 月 日 () 午前・午後 時 分～

会場 …

7 連絡事項

8 閉 会

美里町立小学校統合準備委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この告示は、美里町立小学校の統合にあたり、統合新校の校舎の規模、必要教室数等を検討するため、美里町立小学校統合準備委員会（以下「委員会」という。）を設置することについて、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議及び検討し、その結果を町長に報告するものとする。

- (1) 統合新校の校舎の規模に関すること。
- (2) 統合新校の必要教室数に関すること。
- (3) その他統合新校の建設に向けて必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員18人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 美里町議会議員
- (2) 美里町教育委員会委員
- (3) 区長
- (4) 各小学校のPTA代表及び中学校のPTA代表
- (5) 各小学校の校長及び中学校の校長
- (6) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に掲げる所掌事務が完了した日までとする。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

2 委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員会)

第6条 委員会は、委員長が招集する。この場合において、委員長は、その委員会の議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、令和6年4月1日から施行する。

(美里町立小学校適正規模等検討委員会設置要綱の廃止)

2 美里町立小学校適正規模等検討委員会設置要綱（令和2年教育委員会告示第4号）は、廃止する。

美里町立小学校統合に関するここまでの経過

令和2年	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校適正規模等検討委員会設置。 ・美里町立小学校適正規模等検討委員会第1回会議開催。 (令和3年8月までに9回の会議を実施。)
令和3年	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校適正規模等アンケート調査開始。 (2月まで受付。)
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校適正規模等アンケート調査報告書完成。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校適正規模等検討委員会から教育長に 答申を提出。
令和4年	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校適正規模等検討資料作成業務委託開始。 (令和5年度まで)
令和5年	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校適正規模・適正配置等に関する説明会 開催。(会場：遺跡の森館ホール・東児玉小体育館・ 大沢小体育館)
令和6年	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校統合準備委員会設置。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里町立小学校統合準備委員会第1回会議開催。

美里町立小学校適正規模等検討委員会開催状況（令和2～3年度）

回数	日程・場所	議題
第1回	令和2年7月10日(金) コミュニティセンター 2階大ホール	(1) 美里町立小学校適正規模等検討委員会について (2) 現在の美里町の児童生徒数及び学級数の状況と将来の見通しについて (3) 今後のスケジュールについて (4) その他
第2回	令和2年9月3日(木) 美里町役場 2階201会議室	(1) 小・中学校の適正規模・適正配置の概要について (2) 適正規模等検討委員会関連の動きについて (3) 義務教育学校と小中一貫校について (4) その他
第3回	令和2年10月16日(金) コミュニティセンター 2階大ホール	(1) 美里町立大沢小学校の視察について (2) 坂戸市立城山学園の視察について (3) その他
第4回	令和2年11月27日(金) 美里町役場 2階201会議室	(1) 坂戸市立城山学園の視察報告について (2) 複式学級について (3) その他
第5回	令和3年1月15日(金) 美里町役場 防災倉庫会議室	(1) 美里町立東児玉小学校の視察について (2) 施設維持及び新設の場合の費用について (3) 同規模自治体の実例について (4) その他
第6回	令和3年2月25日(金) コミュニティセンター 2階大ホール	(1) 美里町立松久小学校の視察について (2) 春日部市立江戸川小中学校の視察報告について (3) スクールバスの費用について (4) 保護者アンケートについて (5) その他
第7回	令和3年5月14日(金) 美里町役場 2階201会議室	(1) 美里町立小学校適正規模等検討委員会の経過について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他
第8回	令和3年6月18日(金) 美里町役場 防災倉庫会議室	(1) 答申（案）について (2) その他
第9回	令和3年8月6日(金) 美里町役場 2階201会議室	(1) 答申（案）について (2) その他
答申	令和3年10月28日(木)	委員長および副委員長から教育長に答申提出

視察状況

場所	日程	参加者
美里町立大沢小学校	令和2年10月16日(金)	各委員・事務局職員
坂戸市立城山学園（小中一貫校）	令和2年10月23日(金)	事務局職員
皆野町立三沢小学校（複式学級設置校）	令和2年11月9日(月)	事務局職員
美里町立東児玉小学校	令和3年1月15日(金)	各委員・事務局職員
春日部市立江戸川小中学校（義務教育学校）	令和3年1月19日(火)	事務局職員
美里町立松久小学校	令和3年2月25日(金)	各委員・事務局職員

美里町立小学校適正規模・適正配置について(答申)

令和 3 年 10 月 28 日

美里町立小学校適正規模等検討委員会

目 次

1	はじめに	1
2	美里町立小学校の現状	1
	(1) 児童数について	1
	(2) 学校施設について	2
	(3) 学校配置について	2
	(4) 管理・運営費について	2
3	適正規模・適正配置等を考える視点について	2
	(1) 適正規模の視点	2
	(2) 安心安全な学校施設の視点	3
	(3) 安心安全な通学と適正配置の視点	3
	(4) 学校が地域社会で果たしてきた役割の視点	3
	(5) 効果的な教育実践を行う視点	3
	(6) その他	4
4	答申	4
5	答申の理由	4
6	会議経過	6
7	おわりに	6
	資料編	別添

1 はじめに

義務教育における学校は、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせる場である。「生きる力」とは、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」であり、学校には一人ひとりに応じてその資質や能力を伸ばしていくことが求められる。また、子どもたちは、学校における集団活動を通して、協力や助け合い、協働などの社会性や郷土愛も身に付けていく。このように、学校は子どもたちの成長にとって重要な役割を持っている。

しかしながら、全国的な傾向と同様に、美里町においても人口減少や少子高齢化等が進み、児童数の減少が続いている。このような中では、集団の規模が小さくなり、学級数も減少し、それに伴い県費教職員数も減じられると、学校が子どもたちに与えられる教育のよさが十分に生かされない心配がある。

当委員会は、小学校適正規模・適正配置等について、美里町の10年後、20年後を見据え、様々な視点から検討を進めてきた。令和2年7月から今日まで、話し合いや学校視察等を行い、合計9回の審議・検討を重ねた。こうした審議・検討をまとめた結果をここに答申とする。

2 美里町立小学校の現状

(1) 児童数・学級数について

本町の3つの小学校の令和3年5月1日現在の児童数・学級数は、松久小178人（通常学級6学級）、東見玉小236人（通常学級8学級）、大沢小82人（通常学級6学級）である。松久小及び大沢小は、通常学級が学年1クラスでクラス替えができない状況である。

また、就学前の幼児を含めて、令和3年から令和8年までの町全体の児童数を学年ごとに合計し、学級数を計算すると18～14学級となり、文部科学省で示す1学校の標準学級（注1）に相応する。

学習指導要領で規定された学習内容を達成するためには、個人の学習だけでなく、適切な集団活動やグループ学習を通して学ぶことも多いわけであるが、人数が少ないためにこれらの学習ができず十分な教育効果を上げられない心配がある。現在、小規模の学校では工夫した取り組みを行っている。例えば、大沢小では学年の枠にこだわらず2学年で活動したり、松久小と大沢小では、連携しながら林間学校の取り組みを行ったりしている。

人口動態推計によると、令和15（2033）年頃、大沢小では複式学級（注2）の編制が想定される。また、東見玉小も児童数が減少し、通常学級が学年1学級となり、全体で6学級が想定される。

注1：標準学級 学校教育法施行規則第41条において「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」と規定されている。

注2：複式学級 2つの学年の児童数を合わせても16人以下になる場合は複式学級となり、県費負担教職員は1人のみの配置となる。ただし、1年生を含む場合は8人以下で複式学級となる。

(2) 学校施設について

本町の3つの小学校の教室棟は昭和40年代から50年代にかけて新築されている。令和3年当初で、松久小築49年、東見玉小築44年、大沢小築39年である。

減価償却資産の耐用年数に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)では、鉄筋コンクリート造の学校の場合、従来の60年から平成11年度の改正により47年となっている。しかしながら、実際の学校の施設の物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされ、鉄筋やコンクリートの強度が確保される場合には70~80年程度とされている。耐用年数を短めの70年として考えると、一番古い松久小で定期的に修繕を行ったとしても、令和25年から30年頃には耐用年となる。

本町の3つの小学校の場合、耐震補強工事もなされていることから、40年程度経過しているとは言え、当面は十分安全は担保されている。

しかしながら、一番古い松久小をみると、耐震補強工事を行い修繕を図っても、見た目の古さは隠しきれない。

(3) 学校配置について

本町の3つの小学校の位置は、児童の通学距離からみると「児童が徒歩でおおむね4km以内」に入る位置に設置してある。

しかし、学区によっては、通学路が山や丘を迂回しなければならない。さらに、児童数が減少したことにより、通学班の編成が困難な地域も出てきている。そのうえ、交通安全及び不審者から児童を守るため、家族や地域の方等が見守りに出るなどの必要性が生じ、課題が生じている。

(4) 管理・運営費について

学校は、光熱水費や備品購入等の必要経費のほか、校舎や施設、敷地内の樹木等の維持管理費がかかる。また、児童の学習支援員等といった会計年度任用職員の人件費も必要となる。1校当たり年間およそ4000万円前後の経費がかかっている。この金額は、学校の大規模、小規模にかかわらずかかってくる。

3 適正規模・適正配置等を考える視点について

(1) 適正規模の視点

小中学校においては「学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする(学校教育法施行規則第41条)」と定められている。

この規定から判断すれば、本町の3つの小学校とも基準を下回っている。現在は、学校職員、家庭、地域、教育委員会や町当局の努力と工夫でしのいでいるが、どこまで対応できるか心配される。

特に、今後を考えると、令和15(2033)年頃、大沢小では複式学級の編成が想定される。児童数、学級数は、様々な面で課題が生じる可能性があり、対応が必要と考えられる。

(2) 安心安全な学校施設の視点

学校施設において、子どもたちがよりよい教育活動を行うためには、その安全性、機能性の確保は不可欠である。現在、3小学校の校舎は建築後40年程度を経過し、経年劣化や改修を必要とする箇所もある。耐震補強工事を終えているとはいえ、老朽化は深刻な状況となっている。

学校施設の修繕費用は、児童数が減少するにもかかわらず、今後も増加傾向にある。限られた予算で対策を進めていくためには、改修だけでなく、新築を含めての抜本的な検討が必要である。

(3) 安心安全な通学と適正配置の視点

小学校通学条件は「通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条）」と規定されている。本町はこの規定はクリアしている。

しかし、通学路や通学班、安全安心の確保から考えると、スクールバスが考えられる。現在の3つの小学校のままで、スクールバスを活用することは、合理的ではない。

国は、「スクールバスを利用して通学した場合はおおむね1時間」という規定を示していることから、スクールバスを活用するならば、3つの小学校を1つの小学校にまとめていくことも検討される。

(4) 学校が地域社会で果たしてきた役割の視点

学校は、子どもたちの教育施設であるだけでなく、地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域交流の場等、様々な性格を持っている。また、地域の未来の担い手である子どもたちを育む場であり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っている。

当委員会では、これらの性格を十分に配慮し、小学校教育の直接の受益者である児童の保護者や地域住民の声を重視しつつ、慎重に検討する必要がある。

(5) 効果的な教育実践を行う視点

検討する中で、将来の小学校はどうあるべきか。そして、中学校へのスムーズな移行はどうすることが効果的か。また、児童たちが切磋琢磨し、生きる力を効果的に身に付けさせるには、どうしたらよいか。新しい教育スタイルも検討の視点である。先進地の情報提供により、県内外の小中一貫校、県内唯一の義務教育学校等新たな学校の仕組みも知ることができた。こうした情報を本町の小学校にも生かしていくにはどうしたらよいかという視点も必要である。

(6) その他

全国的な人口減少や少子高齢化等の傾向に対して、美里町だけでなく数多くの市町村が小中学校の統廃合の課題に向き合っている。すでに統廃合を終えた市町村もあれば、検討中の市町村もある。満足している事例もあれば、大きなしこりを残した事例もある。

当委員会は、こうしたことを踏まえ、多くの子どもたち、保護者、住民から賛同が得られるような答申を考えなければならない。

4 答申

当委員会は、検討の結果、次のとおり提言する。

- ◎児童の教育効果を担保する適正規模から考えると、将来は小学校を1校とすることが望ましい。
- ◎学校を1つにする時期については、大沢小学校が複式学級になる時期や松久小学校の校舎の耐久年数時期を勘案し、令和15年頃までが望ましい。
- ◎以下の3点から、新たな小学校は、美里中学校付近の町中心部に新設が望ましい。
 - ・適正規模が1小学校であるならば、適正配置は、町の中心部にすることが望ましい。
 - ・町の中心部の小学校を想定した場合、松久小学校は中ほどに位置するが、建築後の年数も一番古く、その後の改修・修繕費が多く見積られる。また、新しい小学校としては校地面積が狭い。
 - ・美里中学校付近であれば、小学校の教育活動がスムーズにいくように中学校との連携も図ることができる。
- ◎新たな学校の教育スタイルは、小中一貫校として、児童が中学校へスムーズに進学できるように、また教職員は小中学校兼務発令を行い、小学校の教科担任制や中学校の技能科目の充実を図ることが望ましい。
- ◎3校を1校にすると、通学区域が広がり、新たな学校まで徒歩で4kmを超える地域もあり、スクールバスの活用が考えられる。このスクールバスの活用により、通学班の編成や通学路の安全安心の確保が望まれる。

5 答申の理由

小学校においては「学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする（学校教育法施行規則第41条）」と定められている。今後を考えたとき、令和15（2033）年頃、大沢小では複式学級の編成が想定される。また、特別支援学級在籍者が増えると、複式学級の編成が更に早まる可能性もある。児童数、学級数の減少は、様々な面で課題が生じる可能性がある。例えば、通学班の編成、学習指導要領で定められた教育課程の完全実施、多面的多角的に友達の意見や考えを聞き自分の意見を持つこと、クラス替え等々。そこで、こうした課題を解決するために、適正規模の視点から、3小学校を1小学校にしていくことが望

ましいと考える。

また、1つの小学校にした場合、校舎の耐用年数や児童の通学距離、校舎維持管理費の視点から、町の中心に新設の校舎を設置することが望ましいと考える。新設の利点は、児童に新鮮な気持ちで学習に取り組ませることができること。また、修繕費が当面の間かからないこと、光熱水費の合理化が図れることなどが挙げられる。

さらに、美里中学校付近に校舎を新設し、新たな学校の教育スタイルを小中一貫校とすることにより、多くの多様な教員が児童・生徒に関わる体制を作ることができる。特に、算数、理科、外国語等の高学年の教科担任制の導入に対して、中学校のノウハウが生かされるようにしたい。中学校にとっても、将来、小規模中学校になっていくことから、減少する教員の力を小学校教員の方でカバーし、互いに助け合える学校体制ができる。また、小・中学校9年間を通した長期的な教育課程の編成により、地域の特色を生かした教育活動や現在、分散配置されている学習支援員を集中配置することにより、更なる学力の向上を目指したい。

一方で、学校から遠い児童の通学の安全・安心を確保しなければならない。そのために、新たにスクールバスの必要性が生じる。新たな費用負担であるが、今後その運行やルートを検討するにあたっては、各地域の保護者等の意見を踏まえ、慎重に進める必要がある。

また、小学校が子どもたちの教育施設であるだけでなく、地域のコミュニティの核としての性格を有し、防災、保育、地域交流の場等、様々な性格を担ってきた。この役割が消えることに伴い、それに代わる公民館活動等の充実が望まれる。

さらに、跡地の活用についても十分に検討しなければならない。町の財産を有効に活用しなければならない。

6 会議経過

No.	日 時 開始時間	開催場所	内 容
1	令和2年 7月10日(金) 14:30~	美里町 コミュニティセンター	委嘱、諮問、審議
2	9月 3日(木) 14:30~	美里町役場	審議
3	10月16日(金) 13:00~	大沢小、美里町 コミュニティセンター	現地視察 審議
4	11月27日(金) 14:30~	美里町役場	審議
5	令和3年 1月15日(金) 13:30~	東児玉小 美里町役場	現地視察 審議
6	2月25日(木) 13:30~	松久小 美里町役場	現地視察 審議
7	5月14日(金) 14:30~	美里町役場	委嘱、審議
8	6月18日(金) 14:00~	美里町役場	審議
9	8月 6日(金) 14:00~	美里町役場	審議

7 おわりに

当委員会においては、この答申の内容が適切に検討され、今後のよりよい美里町立小学校教育環境の整備と充実が図られることを期待する。

また、学校づくり、地域づくりを進めるにあたっては、地域や保護者、教職員の意見も踏まえ、これからの社会を生きる子どもたちの健全育成が重要である。

美里町立小学校適正規模等アンケート調査報告書
(概要版)

令和4年3月

美里町教育委員会

美里町立小学校適正規模等アンケート調査報告書

目次

1 調査概要	1
(1)調査の目的.....	1
(2)調査の内容.....	1
2 回答者の属性	2
問1 子どもの状況(学齢期).....	2
問2 居住地区.....	2
3 1学級の人数について	3
問3 望ましい1学級の人数.....	3
問4 1学級の人数の選択理由.....	4
4 複式学級の導入について	6
問5 複式学級の導入についての考え方.....	6
問6 複式学級の導入について考え方の選択理由.....	7
5 適正規模・適正配置で重視すべき点について	9
問7 適正規模・適正配置で重視すべき点.....	9
6 学校の統合について	11
問8 学校統合への考え方.....	11
問9 学校を統合しない場合の課題の解決方法.....	12
7 小中一貫教育について	13
問10 小中一貫教育の開始時期.....	13
8 スクールバスの運行について	15
問11 スクールバスの運行についての考え方.....	15

1 調査概要

(1) 調査の目的

美里町立小学校の将来におけるより良い教育環境と充実した学校教育実現のための適正な規模、配置等を検討するため、国が示す手引きに基づき、今後の町の小学校における適正規模、適正配置について検討委員会で出した答申について町民の意見を聞くことを目的とします。

(2) 調査の内容

①調査方法

調査対象者：町内に居住する中学3年から令和3年10月31日生まれまでのお子様のいる全家庭の保護者

配布・回収方法：町内の幼稚園・保育園・小学校・中学校の園児・児童・生徒を通して配布・回収

町内の園等に通園・通学していない場合は各家庭へ郵送にて配布・回収

調査期間：令和4年1月31日～2月14日

②配布・回収状況

配布数：729票 / 有効回収数：591票 / 回収率：81.07%

③集計について

四捨五入の有効数字の関係で、合計が100%にならない場合があります。

要求回答数を超える等、設問の要求形式の沿わない回答を無効としています。

無回答・無効は合わせて無回答として表示しています。

クロス分析については、特徴が見られる項目を主にコメントしています。

④調査項目

問1 子どもの状況（学齢期）

問2 居住地区

問3 望ましい1学級の人数

問4 1学級の人数の選択理由

問5 複式学級の導入についての考え方

問6 複式学級の導入についての考え方の選択理由

問7 適正規模・適正配置で重視すべき点

問8 学校統合への考え方

問9 学校を統合しない場合の課題の解決方法

問10 小中一貫教育の開始時期

問11 スクールバスの運行についての考え方

問12 学校の適正規模・適正配置に関する御意見（略）

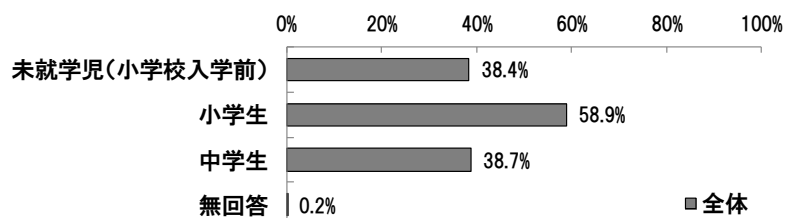
2 回答者の属性

問1 子どもの状況（学齢期）

問1:あなたのお子様について、あてはまる番号を、下の回答欄に記入してください。(あてはまるお子様すべてを記入)

問1-1 子どもの状況(全体)

	回答数	割合
未就学児(小学校入学前)	227	38.4%
小学生	348	58.9%
中学生	229	38.7%
無回答	1	0.2%
全体	591	100.0%



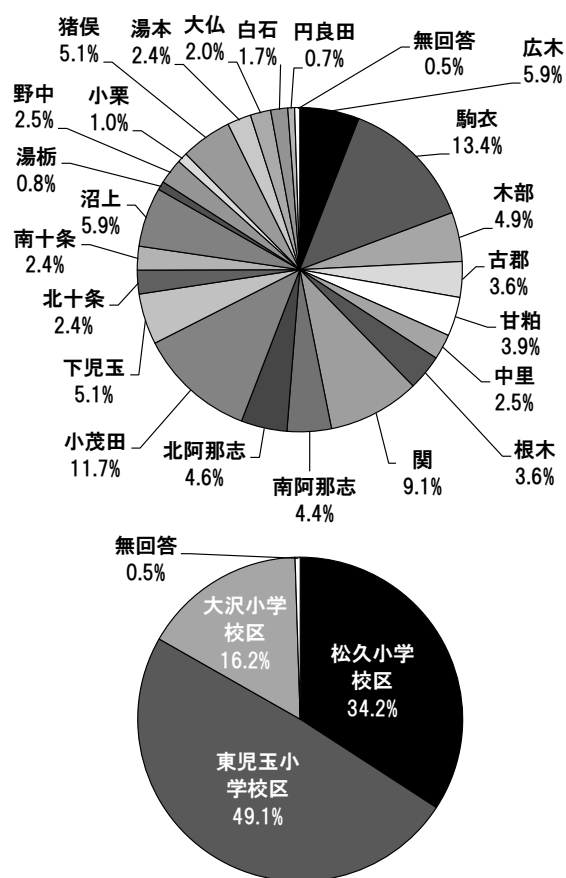
子どもの学齢期別の割合は、「小学生」が58.9%と最も多く、次いで「中学生」が38.7%、「未就学児(小学校入学前)」が38.4%となっています。

問2 居住地区

問2:どの地区にお住まいですか。(1つを選択)

問2-1 居住地区(全体・小学校区別)

		回答数	割合	回答数	割合
松久小学校区	広木	35	5.9%	202	34.2%
	駒衣	79	13.4%		
	木部	29	4.9%		
	古郡	21	3.6%		
	甘粕	23	3.9%		
	中里	15	2.5%		
東児玉小学校区	根木	21	3.6%	290	49.1%
	関	54	9.1%		
	南阿那志	26	4.4%		
	北阿那志	27	4.6%		
	小茂田	69	11.7%		
	下児玉	30	5.1%		
	北十条	14	2.4%		
	南十条	14	2.4%		
	沼上	35	5.9%		
大沢小学校区	湯栢	5	0.8%	96	16.2%
	野中	15	2.5%		
	小栗	6	1.0%		
	猪俣	30	5.1%		
	湯本	14	2.4%		
	大仏	12	2.0%		
	白石	10	1.7%		
	円良田	4	0.7%		
無回答	3	0.5%	3	0.5%	
計	591	100.0%	591	100.0%	



回答者の居住地区は、多い順に「駒衣」13.4%、「小茂田」11.7%、「関」9.1%などとなっています。小学校区別では、「東児玉小学校区」49.1%、「松久小学校区」34.2%、「大沢小学校区」16.2%となっています。

3 1学級の人数について

問3 望ましい1学級の人数

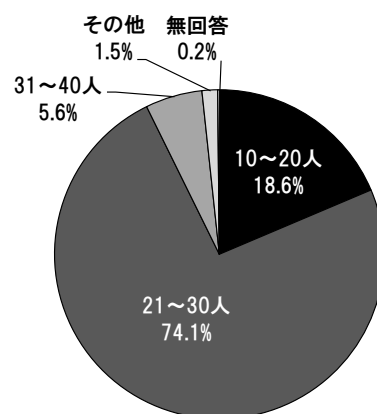
問3:あなたは1学級(クラス)の人数はどの程度が良いと考えますか。(1つを選択)

問3-1 望ましい1学級の人数(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10～20人	110	18.6%	17	8.4%	55	19.0%	38	39.6%	-	0.0%
21～30人	438	74.1%	174	86.1%	215	74.1%	47	49.0%	2	66.7%
31～40人	33	5.6%	10	5.0%	16	5.5%	7	7.3%	-	0.0%
その他	9	1.5%	1	0.5%	4	1.4%	4	4.2%	-	0.0%
無回答	1	0.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%

望ましい1学級の人数は、全体では「21～30人」が74.1%と最も多く、次いで「10～20人」が18.6%、「31～40人」が5.6%となっています。

小学校区別にみると、いずれの小学校区も「21～30人」が最も多くなっていますが、その割合は、松久小学校区の86.1%に対し、東児玉小学校区では74.1%、大沢小学校区では49.0%とばらつきがあります。大沢小学校区では、「10～20人」も39.6%と比較的多くなっています。



問3-2 望ましい1学級の人数(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10～20人	110	18.6%	47	20.7%	68	19.5%	31	13.5%	-	0.0%
21～30人	438	74.1%	165	72.7%	259	74.4%	178	77.7%	-	0.0%
31～40人	33	5.6%	11	4.8%	14	4.0%	16	7.0%	-	0.0%
その他	9	1.5%	4	1.8%	7	2.0%	4	1.7%	-	0.0%
無回答	1	0.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「21～30人」が最も多く、7割以上を占めています。次に「10～20人」が1～2割程度となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

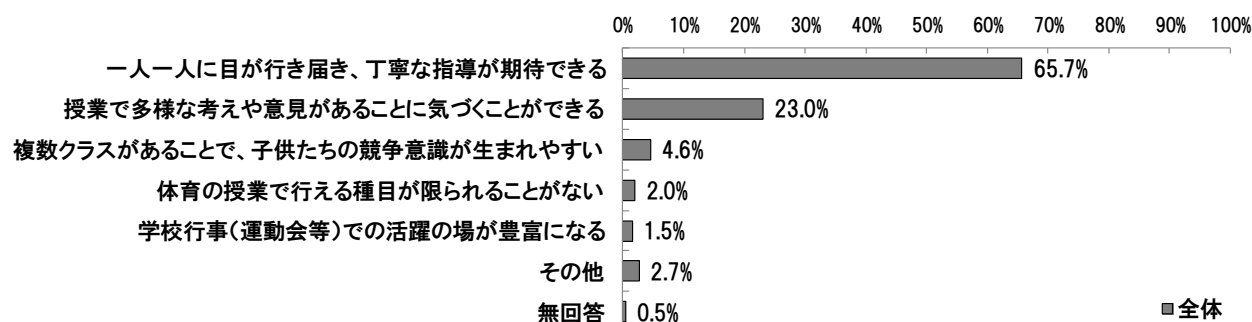
- ・1～2年生は10～20人、3～6年生は21～30人
- ・20～25人
- ・先生が対応できるなら何人でも良い など

問4 1学級の人数の選択理由

問4:問3で選んだ項目についてそう思われる理由は何ですか。(1つを選択)

問4-1 1学級の人数の選択理由(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる	388	65.7%	132	65.3%	196	67.6%	59	61.5%	1	33.3%
授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる	136	23.0%	51	25.2%	62	21.4%	22	22.9%	1	33.3%
複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい	27	4.6%	7	3.5%	13	4.5%	7	7.3%	-	0.0%
体育の授業で行える種目が限られることがない	12	2.0%	3	1.5%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
学校行事(運動会等)での活躍の場が豊富になる	9	1.5%	4	2.0%	4	1.4%	1	1.0%	-	0.0%
その他	16	2.7%	3	1.5%	9	3.1%	4	4.2%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	2	1.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



望ましい1学級の人数の選択理由は、全体では「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が65.7%と最も多く、次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」が23.0%、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」が4.6%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が最も多く、6割以上を占めています。次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」の順となっています。

問 4-2 1学級の人数の選択理由(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる	388	65.7%	147	64.8%	240	69.0%	140	61.1%	-	0.0%
授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる	136	23.0%	51	22.5%	74	21.3%	62	27.1%	-	0.0%
複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい	27	4.6%	12	5.3%	14	4.0%	8	3.5%	-	0.0%
体育の授業で行える種目が限られることがない	12	2.0%	5	2.2%	3	0.9%	7	3.1%	-	0.0%
学校行事(運動会等)での活躍の場が豊富になる	9	1.5%	4	1.8%	6	1.7%	4	1.7%	-	0.0%
その他	16	2.7%	7	3.1%	9	2.6%	7	3.1%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.4%	2	0.6%	1	0.4%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が最も多く、次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」の順となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- ・教師・生徒ともにストレスが少なく、かつ、コミュニケーションをとるのに良い人数かと。
- ・少なくとも、多くても、それぞれにメリット・デメリットはあると思う。どちらでも良い。 など

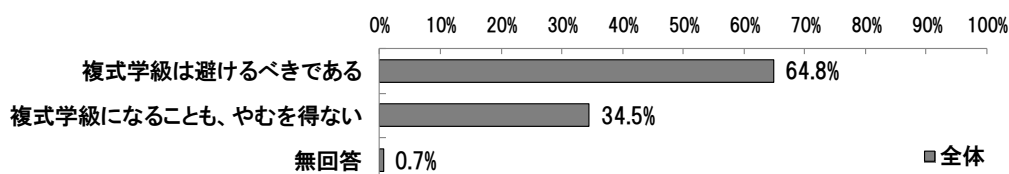
4 複式学級の導入について

問5 複式学級の導入についての考え方

問5:美里町では令和16年度頃から少子化により複数学年で授業をする複式学級になる学校があると予想されています。このことについて、どうお考えですか。(1つを選択)

問5-1 複式学級の導入についての考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
複式学級は避けるべきである	383	64.8%	133	65.8%	185	63.8%	63	65.6%	2	66.7%
複式学級になることも、やむを得ない	204	34.5%	67	33.2%	104	35.9%	33	34.4%	-	0.0%
無回答	4	0.7%	2	1.0%	1	0.3%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



複式学級の導入についての考え方は、全体では「複式学級は避けるべきである」が64.8%と最も多く、次いで「複式学級になることも、やむを得ない」が34.5%となっています。

小学校区別にみても、すべての小学校区で「複式学級は避けるべきである」が最も多くなっています。

問5-2 複式学級の導入についての考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
複式学級は避けるべきである	383	64.8%	162	71.4%	232	66.7%	137	59.8%	-	0.0%
複式学級になることも、やむを得ない	204	34.5%	63	27.8%	114	32.8%	90	39.3%	-	0.0%
無回答	4	0.7%	2	0.9%	2	0.6%	2	0.9%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

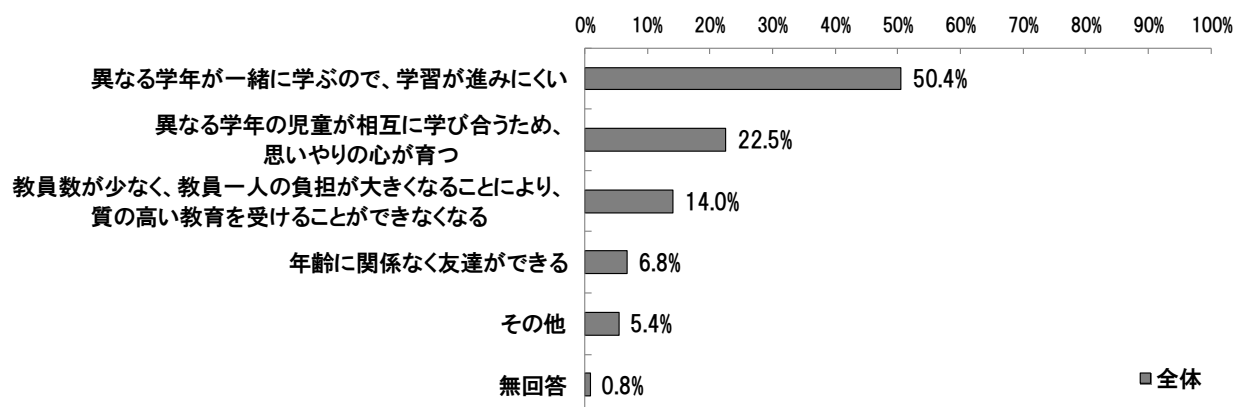
子どもの学齢期別では、すべての学齢期で「複式学級は避けるべきである」が最も多く、その内訳は未就学児(小学校入学前)が71.4%、小学生が66.7%、中学生が59.8%と、学齢期が低いほど割合が高くなっています。

問6 複式学級の導入について考え方の選択理由

問6: 問5で選んだ項目についてそう思われる理由は何ですか。(1つを選択)

問6-1 複式学級の導入について考え方の選択理由(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい	298	50.4%	107	53.0%	145	50.0%	45	46.9%	1	33.3%
異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ	133	22.5%	45	22.3%	65	22.4%	23	24.0%	-	0.0%
教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる	83	14.0%	27	13.4%	38	13.1%	17	17.7%	1	33.3%
年齢に関係なく友達ができる	40	6.8%	11	5.4%	24	8.3%	5	5.2%	-	0.0%
その他	32	5.4%	10	5.0%	17	5.9%	5	5.2%	-	0.0%
無回答	5	0.8%	2	1.0%	1	0.3%	1	1.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



複式学級の導入について考え方の選択理由は、全体では「異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が50.4%と最も多く、次いで「異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ」が22.5%、「教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる」が14.0%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が最も多く、次いで「異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ」、「教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる」の順となっています。

問 6-2 複式学級の導入について考え方の選択理由(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
異なる学年と一緒に学ぶので、学習が進みにくい	298	50.4%	132	58.1%	181	52.0%	105	45.9%	-	0.0%
異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ	133	22.5%	41	18.1%	76	21.8%	55	24.0%	-	0.0%
教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる	83	14.0%	30	13.2%	52	14.9%	32	14.0%	-	0.0%
年齢に関係なく友達ができる	40	6.8%	11	4.8%	22	6.3%	21	9.2%	-	0.0%
その他	32	5.4%	11	4.8%	14	4.0%	14	6.1%	-	0.0%
無回答	5	0.8%	2	0.9%	3	0.9%	2	0.9%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「異なる学年と一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が最も多く、その内訳は未就学児（小学校入学前）が 58.1%、小学生が 52.0%、中学生が 45.9%と、学齢期が低いほど割合が高くなっています。

<その他のご意見（抜粋）>

- ・少人数で学ぶことよりも、多くの仲間と学んで欲しい。
- ・複式学級はやむを得ないが、教員の負担が心配。
- ・学年ごとに学ぶものがあるので、学年ごとにして欲しい。他の地域と遅れてしまうのが心配。
- ・複式学級が身近にないので、メリット・デメリットが分かりづらい。 など

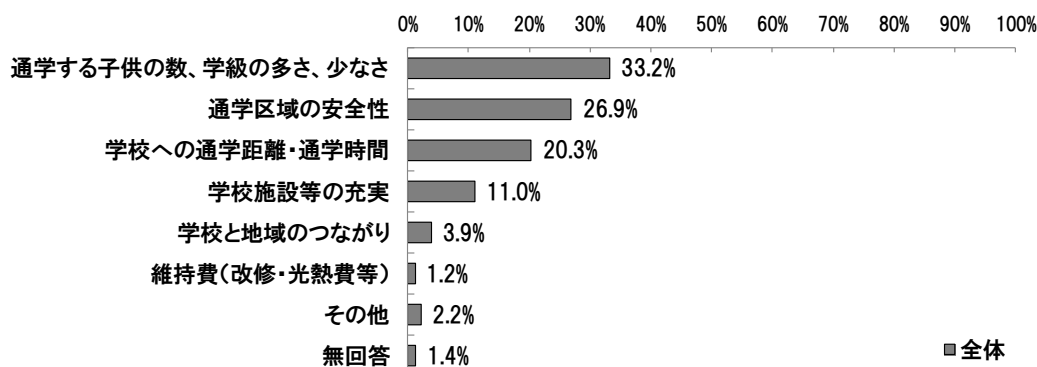
5 適正規模・適正配置で重視すべき点について

問7 適正規模・適正配置で重視すべき点

問7: 適正規模・適正配置で重視すべき点は何とお考えですか。(1つを選択)

問7-1 適正規模・適正配置で重視すべき点(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通学する子供の数、学級の多さ、少なさ	196	33.2%	70	34.7%	93	32.1%	32	33.3%	1	33.3%
通学区域の安全性	159	26.9%	48	23.8%	82	28.3%	28	29.2%	1	33.3%
学校への通学距離・通学時間	120	20.3%	33	16.3%	61	21.0%	25	26.0%	1	33.3%
学校施設等の充実	65	11.0%	27	13.4%	32	11.0%	6	6.3%	-	0.0%
学校と地域のつながり	23	3.9%	12	5.9%	9	3.1%	2	2.1%	-	0.0%
維持費(改修・光熱費等)	7	1.2%	2	1.0%	3	1.0%	2	2.1%	-	0.0%
その他	13	2.2%	5	2.5%	7	2.4%	1	1.0%	-	0.0%
無回答	8	1.4%	5	2.5%	3	1.0%	-	0.0%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



適正規模・適正配置で重視すべき点については、全体では「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が33.2%と最も多く、次いで「通学区域の安全性」が26.9%、「学校への通学距離・通学時間」が20.3%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が最も多く、次いで「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の順となっています。また、「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の項目では、大沢小学校区の割合がほかの小学校区よりもやや高くなっています。

問 7-2 適正規模・適正配置で重視すべき点(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通学する子供の数、学級の多さ、少なさ	196	33.2%	70	30.8%	122	35.1%	78	34.1%	-	0.0%
通学区域の安全性	159	26.9%	66	29.1%	92	26.4%	54	23.6%	1	100.0%
学校への通学距離・通学時間	120	20.3%	44	19.4%	65	18.7%	48	21.0%	-	0.0%
学校施設等の充実	65	11.0%	27	11.9%	36	10.3%	29	12.7%	-	0.0%
学校と地域のつながり	23	3.9%	10	4.4%	16	4.6%	7	3.1%	-	0.0%
維持費(改修・光熱費等)	7	1.2%	3	1.3%	6	1.7%	4	1.7%	-	0.0%
その他	13	2.2%	5	2.2%	6	1.7%	7	3.1%	-	0.0%
無回答	8	1.4%	2	0.9%	5	1.4%	2	0.9%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が最も多く、次いで「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の順となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- ・良い環境で適正人数の教育を望みます。
- ・教育の質は確保すべきだと思う。
- ・教師の質。
- ・学校施設の老朽化を考えると建替えは最優先しても良いかと思われます。
- ・子どもの現状の把握、環境の把握。
- ・全て必要。 など

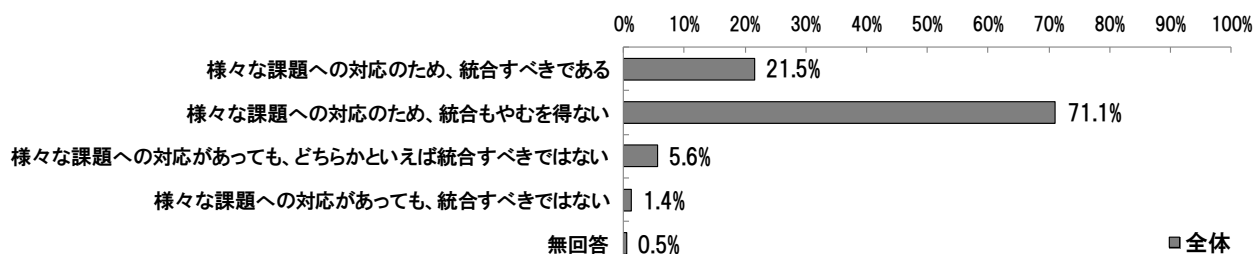
6 学校の統合について

問8 学校統合への考え方

問8: 現在、美里町では少子化の影響で児童数が減っており、複式学級が予想されること、クラス替えができない学年があること、体育の学習でサッカー等集団での活動ができないこと、小学校の校舎の老朽化が進んでおり、今後、多額の改修費が必要であること、毎年、光熱費等の必要経費がかかること等の課題を抱えています。検討委員会では美里町の子どもたちのため、より良い教育環境をめざすという観点から、学校の統合を将来の望ましい方向性として答申されました。あなたは学校の統合に対してどのようにお考えですか。(1つを選択)

問8-1 学校統合への考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
様々な課題への対応のため、統合すべきである	127	21.5%	44	21.8%	60	20.7%	21	21.9%	2	66.7%
様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない	420	71.1%	145	71.8%	204	70.3%	71	74.0%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない	33	5.6%	9	4.5%	21	7.2%	2	2.1%	1	33.3%
様々な課題への対応があっても、統合すべきではない	8	1.4%	3	1.5%	3	1.0%	2	2.1%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.5%	2	0.7%	-	0.0%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



学校統合への考え方は、全体では「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が71.1%と最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」が21.5%で、両者を合わせた92.6%の回答者が統合に理解を示しています。一方、「様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない」(5.6%)と「様々な課題への対応があっても、統合すべきではない」(1.4%)の合計は7.0%です。

小学校区別では、いずれの小学校区も「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」の順となっています。両者を合わせた割合は、多い順に大沢小学校区95.9%、松久小学校区93.6%、東児玉小学校区91.0%となっています。

問 8-2 学校統合への考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
様々な課題への対応のため、統合すべきである	127	21.5%	57	25.1%	67	19.3%	39	17.0%	1	100.0%
様々な課題への対応のため統合もやむを得ない	420	71.1%	153	67.4%	257	73.9%	174	76.0%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない	33	5.6%	14	6.2%	19	5.5%	13	5.7%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、統合すべきではない	8	1.4%	2	0.9%	4	1.1%	2	0.9%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.4%	1	0.3%	1	0.4%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」の順となっています。両者を合わせた割合は、多い順に小学生 93.2%、中学生 93.0%、未就学児（小学校入学前） 92.5%となっています。

問 9 学校を統合しない場合の課題の解決方法

問9: 問8で3(様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない)、4(様々な課題への対応があっても、統合すべきではない)のどちらかを回答した方にお聞きします。統合しない場合、問8にあるような課題をどのようにして解決したらよいと思いますか。(自由記入)

学校を統合しない場合の課題の解決方法について自由記入方式で伺ったところ、主に以下のような回答が寄せられました。

<課題の解決方法(抜粋)>

- ・まちが子育て支援や若者の移住・定住支援を充実し、少子化の進行を食い止める。
- ・校舎の規模を小さくする等して改修費を抑える。
- ・寄附を募る。
- ・余った教室を使用せず光熱費等を節約する。
- ・時間割を工夫し、体育や生活科等、一部の教科のみを複数学年で行う。
- ・人数と立地を考慮し、大沢小と松久小のみを統合する。
- ・地域の拠点となる学校の位置付けを考えると、統合には抵抗がある。
- ・スクールバス等を導入し、通学における距離や時間、安全性が確保できれば統合しても良い。 など

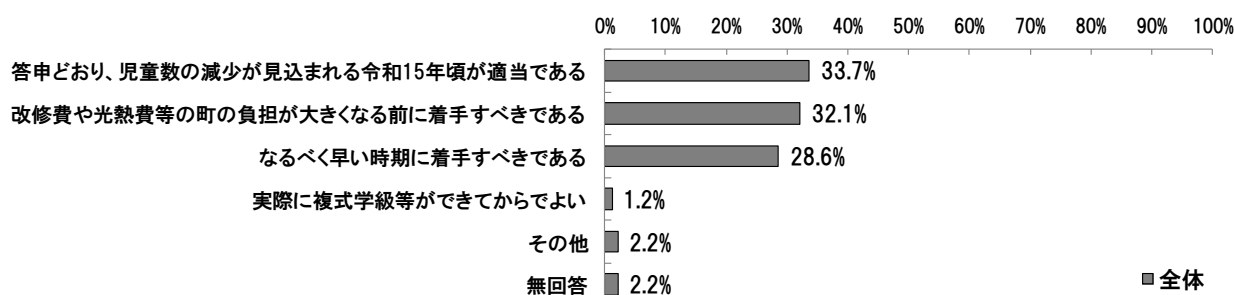
7 小中一貫教育について

問10 小中一貫教育の開始時期

問10: 答申では児童数の減少が見込まれる令和15年頃までに新たな小中一貫校を建てるのが望ましいとしておりますが、新たな教育を始める時期としてはどのようにお考えですか。(1つを選択)

問10-1 小中一貫教育の開始時期(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である	199	33.7%	69	34.2%	98	33.8%	32	33.3%	-	0.0%
改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである	190	32.1%	67	33.2%	88	30.3%	34	35.4%	1	33.3%
なるべく早い時期に着手すべきである	169	28.6%	57	28.2%	88	30.3%	22	22.9%	2	66.7%
実際に複式学級等ができてからでよい	7	1.2%	1	0.5%	4	1.4%	2	2.1%	-	0.0%
その他	13	2.2%	4	2.0%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
無回答	13	2.2%	4	2.0%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



小中一貫教育の開始時期は、全体では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が33.7%と最も多く、次いで「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」が32.1%、「なるべく早い時期に着手すべきである」が28.6%となっています。

小学校区別では、松久小学校区と東児玉小学校区では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が最も多くなっているのに対し、大沢小学校区では「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」が最も多くなっています。

問 10-2 小中一貫教育の開始時期(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である	199	33.7%	72	31.7%	138	39.7%	81	35.4%	-	0.0%
改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである	190	32.1%	66	29.1%	116	33.3%	73	31.9%	-	0.0%
なるべく早い時期に着手すべきである	169	28.6%	71	31.3%	82	23.6%	65	28.4%	1	100.0%
実際に複式学級等ができてからでよい	7	1.2%	4	1.8%	3	0.9%	2	0.9%	-	0.0%
その他	13	2.2%	6	2.6%	5	1.4%	5	2.2%	-	0.0%
無回答	13	2.2%	8	3.5%	4	1.1%	3	1.3%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、小学生と中学生では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が最も多く、次に「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」と続いています。未就学児では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」の次に「なるべく早い時期に着手すべきである」が多くなっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- すぐに取り組んでいただきたいです。
- 児童数が減少する時期に合わせ、万全の用意が出来ていれば良いと思います。
- 予算・準備等クリアした段階で始めるのが良いと思います。
- 複式学級ができる前に着手して欲しい。
- 時期と言うより、変化に対する子どもたちの心のケアをどのようにするかを考えてから実施していただきたい。
- いじめとかの心配がある。やるべきではないと思う。 など

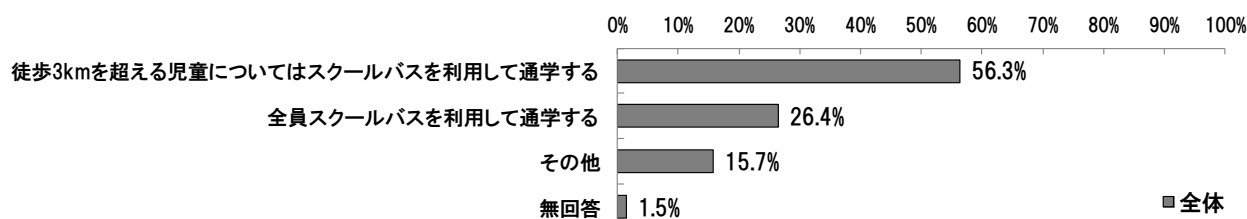
8 スクールバスの運行について

問11 スクールバスの運行についての考え方

問11：答申では学校からの通学距離3km以内を徒歩通学とし、3kmを超える場合にはスクールバスを活用することとしています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条では、小学校の通学距離についてはおおむね4km以内と示されています。）スクールバスの運行について、どのようにお考えですか。（1つを選択）

問11-1 スクールバスの運行についての考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する	333	56.3%	120	59.4%	152	52.4%	60	62.5%	1	33.3%
全員スクールバスを利用して通学する	156	26.4%	45	22.3%	85	29.3%	24	25.0%	2	66.7%
その他	93	15.7%	34	16.8%	49	16.9%	10	10.4%	-	0.0%
無回答	9	1.5%	3	1.5%	4	1.4%	2	2.1%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



スクールバスの運行についての考え方は、全体では「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が56.3%と最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」が26.4%、「その他」が15.7%となっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」の順となっています。

また、「その他」を選択した回答者からは、基準とする距離の変更や希望制の導入など具体的な運用案について触れたものが多いほか、通学の安全性、体力づくりの観点なども含め、様々な意見が寄せられています。

問11-2 スクールバスの運行についての考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する	333	56.3%	125	55.1%	199	57.2%	131	57.2%	-	0.0%
全員スクールバスを利用して通学する	156	26.4%	55	24.2%	93	26.7%	59	25.8%	1	100.0%
その他	93	15.7%	41	18.1%	53	15.2%	37	16.2%	-	0.0%
無回答	9	1.5%	6	2.6%	3	0.9%	2	0.9%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」の順となっています。

<その他のご意見（抜粋）>

- 希望者は全員スクールバスを利用して通学させる。
- 3kmを超えるに限らず、多種多様な理由で、バスを必要とする児童には、臨機応変に対応するのを望みます。
- 通学班が編制できない地域の児童も、安全・防犯のためスクールバスに乗せるのが望ましいと思う。
- 安全等考えると、徒歩は2km以内とした方が良いと思う。
- 徒歩30分以上かかる距離から。歩いて通学も子どもの体力化につながる。
- 費用の負担や運行などについての詳細がないことにはどちらとも言えない。 など

5 今後の進め方

○小学校を1校に統合する場合の概略スケジュールは以下のとおりになります。



<メモ>

美里町立小学校のこれからのあり方について (案)

資料5-1

1 町立小学校の現況

○現在、3つの小学校の児童数・学級数（令和5年5月1日現在）は、以下のとおりです。

松久小 171人（通常学級6学級）
東児玉小 234人（通常学級8学級）
大沢小 93人（通常学級6学級）

学校名	建物名	竣工年度	築年数(年)	延床面積(m ²)	敷地面積(m ²)
松久小学校	教室	1972	51	2,430	11,147
	体育館	1976	47	803	
	給食室	1981	42	110	
東児玉小学校	教室1	1977	46	1,632	13,547
	教室2	1979	44	1,457	
	体育館	1977	46	912	
大沢小学校	給食室	1979	44	140	16,138
	教室	1982	41	2,459	
	体育館	1972	51	608	
	給食室	1982	41	109	

○1学年1クラスの単学級が多く、クラス替えができない現状です。今後、更なる児童数の減少により、1つのクラスに複数学年の児童

が混在する複式学級となる可能性もあります。子どもたちが将来、集団の中で多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会を設けることが重要です。そのためには適正な学校規模の維持が必要です。

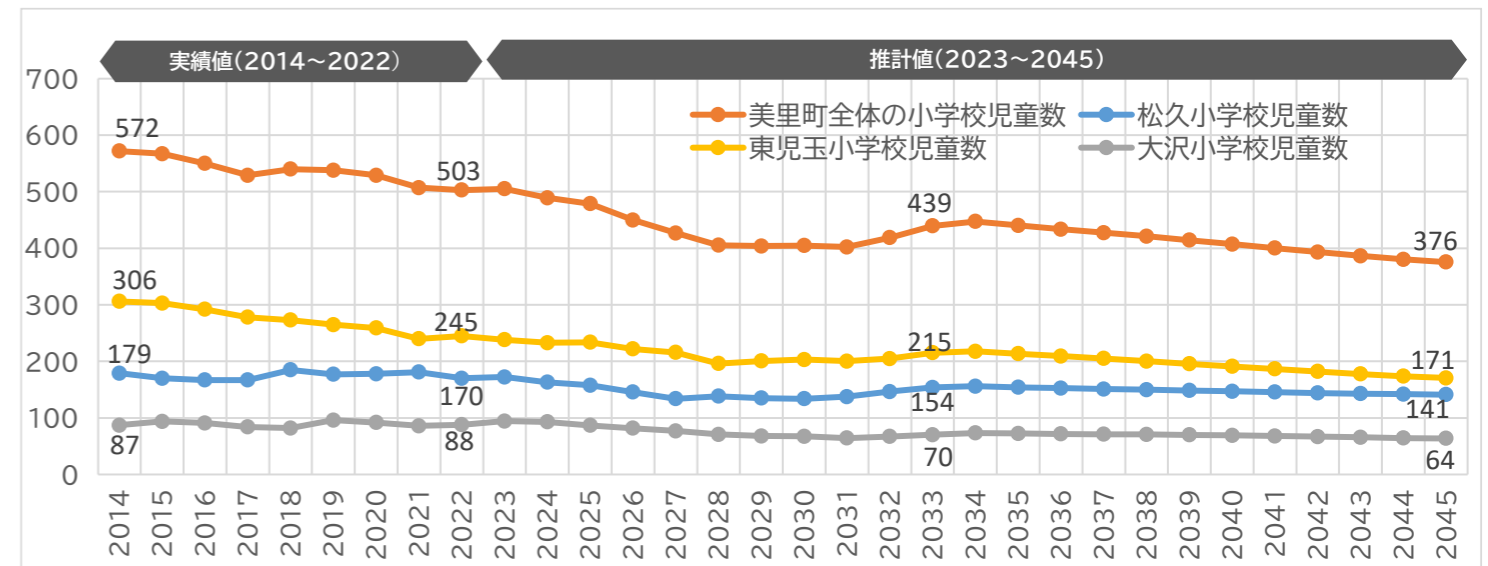
○令和の時代の新しい学びに対応していく上で、ハード・ソフトともに多額の資金が必要になります。同時に現在、3つの小学校の校舎は築40年以上が経過し、老朽化が進行しており、今後、維持していくには長寿命化改修（大規模改修）が必要で、3校とも維持するには膨大な費用が見込まれます。

○国際化やDXの進展など、私たちを取り巻く環境が大きく変化する中で、3校維持に必要な老朽化対策予算を、充実した新しい学びに対応した施設にすることにより、これからの社会で活躍する人材を育成することができます。

2 将来の児童数と教育環境

○将来の3つの小学校の児童数は、2033年（令和15年）には、東児玉小学校で215人、松久小学校で154人、大沢小学校で70人となる見込みです。更に、2045年（令和27年）には、東児玉小学校で171人、松久小学校で141人、大沢小学校で64人となる見込みです。

○1つの小学校に統合した場合を想定すると、2033年（令和15年）には439人、2045年（令和27年）には376人となる見込みです。



○文部科学省では、小学校の望ましい学級数はクラス替えが可能な **1 学年 2 学級以上**としています（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き）。2学級とするためには **1 学年最低 36 人**が必要です。

○ **1つの小学校に統合**した場合には、児童数の大幅な減少が見込まれる2043年（令和25年）においても、1学年2学級の望ましい学級数が維持されます。

小学校		実績値		推計値						
		H29	R4	R5	R10	R15	R20	R25	R27	
1つの小学校に統合した場合	児童数	529	503	505	405	439	422	387	376	
	学級数	17	17	17	12	14	12	12	12	
3つの小学校を維持した場合	東児玉小学校	児童数	278	245	238	196	215	201	178	171
		学級数	12	8	9	6	7	6	6	6
	松久小学校	児童数	167	170	172	138	154	150	143	141
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6
	大沢小学校	児童数	84	88	95	71	70	71	66	64
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6

※大沢小学校は、学年の人数によっては複式学級となる可能性があります。

○本町において1つの小学校に統合する効果は以下のとおりです。

学習面

- ① 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が増す。
- ② 児童、教職員数が増え、グループ学習や習熟度別学習、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教員の配置、ALT（外国語指導助手）の常時配置、各種支援員の配置、専科教員による指導など、多様な学習・指導形態が取りやすくなる。
- ③ 運動会での集団演技・団体競技や音楽会での合奏・合唱の規模を大きくすることができ、学校行事が充実する。
- ④ 中学校の敷地内や周辺に整備することで、中学校との施設の共用化や小学校と中学校との教育面での連携が可能になる。

生活面・環境面

- ① クラス替えができるようになり、人間関係等が固定化しにくくなる。
- ② 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ③ 友人が増える。集団遊びが成立し、遊びの幅が広がる。クラスの男女比が均等になりやすい。

学校運営面・財政面・その他

- ① 教職員一人に対する複数の校務分掌の集中が解消され、与えられた役割に専念できるようになる。
- ② 3校それぞれを建替え・改修するよりも、1校に統合して新設校を整備した方が、スクールバスの導入を含めても将来費用負担が軽減される。

3 スクールバスの運行

(1) 利用対象者

通学距離が道のりで2km以上の児童（ただし通学班単位で決定します）

(2) 想定ルート数

12ルート

(3) 想定便数

登校時1便または2便・下校時2便

(4) 想定バス停発車時刻

7:20~8:00頃

(5) 想定乗車時間

5分~30分

4 将来費用負担の軽減

■ 1つの小学校に統合した場合（試算）

今後40年間で **124 億円** (3.1 億円/年)

◆ 主な費用

・新設小学校の整備	35.0 億円
・新設小学校のプール改築（築後30年目安）	3.1 億円
・スクールバスの運行	34.5 億円
・美里中学校の長寿命化改修（築後40年目安）	11.0 億円
・既存3小学校の維持管理・運営コスト	5.6 億円
・新設小学校の維持管理・運営コスト	14.0 億円
・美里中学校の維持管理・運営コスト（40年間）	20.7 億円

■ 3つの小学校を維持した場合（試算）

今後40年間で **173 億円** (4.3 億円/年)

◆ 主な費用

・既存3小学校の長寿命化改修（築後40年目安）	21.7 億円
・既存3小学校の建替え（築後80年目安）	70.1 億円
・美里中学校の改築（体育館：改修後35年、プール：築後30年目安）	14.7 億円
・美里中学校の長寿命化改修（築後40年目安）	17.9 億円
・既存3小学校の維持管理・運営コスト（40年間）	24.5 億円
・美里中学校の維持管理・運営コスト（40年間）	23.6 億円

※上記2ケースにおいて、「1つの小学校に統合した場合」の方が、美里中学校の長寿命化改修、維持管理・運営コストの費用が低くなるのは、美里中学校の一部の機能を新設小学校に持たせているためです。

美里町立小学校適正規模・適正配置等に関する説明会 質疑応答

11月25日 遺跡の森館ホール

1. 東児玉小学校区住民

質問：コスト比較にて、現状の3校運用より統合の方が安価であると認識しました。保護者に学校から小学校の全・県学調の結果が芳しくない内容のお知らせがあったので、コストが浮く分を学力向上に繋がられるような使い方をしていただきたいと思います。

回答：姉妹都市である戸田市を視察し、そこで得た内容を来年度からの予算に盛り込めるよう検討しています。本格的なAIドリルの導入や、QUテスト以外にも心の機微の変化を調べるソフトの導入も調整しています。先生方の働き方改革として、昨年度から校務支援システムを導入しました。また、ICT支援員を設置しています。教室では黒板ではなくプロジェクターを使いパソコンで授業ができるようにしたいと思っています。

質問：近隣に進学校があり、有名な大学に進学していく子供たちがいます。その子どもたちが社会人となる時に町を出ていく人が多い。せっかく良い学校を作り学力が向上しても、その子どもたちが美里町を出て行ってしまわずに、美里町に戻ってきて納税してもらえるようなビジョンを設計いただきたいと思います。

回答：改善策としては、奨学金を利用し返済する方が、町に住所を置いていただいた場合に、返還支援制度を検討しています。奨学金を使おうと思う子どもたちが、町に住所を置いて通学や通勤をする、そのために就職先等を決めてもらえるように考えています。課題として、交通面が悪い、買い物する場所がない、通勤通学に不便であることがアンケート結果でも挙がっており、美里町に住所を置いたまま通勤通学ができるよう、新幹線通学通勤への支援を行っています。役場周辺の開発も考えており、県道東側には県が工業団地を作る調整をしております。西側はできれば商業関係の誘致をしたいと考えています。

2. 松久小学校区住民

質問：統合した場合に既存校舎はどうなるのでしょうか。取り壊すのか、それとも活用するのか教えてください。

回答：当面は旧校舎を避難所として残します。その後、時期を見て維持するか、壊すかを決めていくことになります。

質問：統合した場合、学童はどうなるのか教えてください。

回答：学校のそば、または隣接が適切だと思いますが、民間新設は難しく、行政が施設を用意することが必要だと考えています。学童に併せて、はにぼんプラザのような勉強・交流スペースや、小学校・中学校・町の図書

館を1つにすることも考えられます。可能な限り役場周辺にいろいろな施設を集積することが必要だと思います。例えば、学童の近くにスーパーがあれば、送迎時に保護者の利便性向上にもつながり、こういった仕掛けがわが町に必要なと思います。

3. 大沢小学校区住民

質問：統合時期について、令和15年とあるがもっと早めていただきたい。できればあと10年経つ前に実施していただけるとありがたいです。美里町はみんな仲がいいと思いますが、勉強に関しては競争という意識が低いので小学校は伸び悩んでいると思います。中学校は技能教科教員が非常勤ならば、小中一貫校にして小学校とあわせて専科教員の配置等を検討いただきたいと思います。

回答：統合につきましては、検討委員会では令和15年”までに”なので、皆様のご理解がいただければ、もっと早くスタートできます。「5年以内」を目指していくつもりです。中学の技能教科に非常勤講師は現状おりません。しかし今後クラス数が減ってくると、現状の形態が難しい可能性も出てきます。それを含めて小中が一貫して教育を受けるシステムを考えなければいけないと思っております。

4. 大沢小学校区住民

質問：統合の時期について、具体的に開校日等がいつ示されるのでしょうか。入学前の子供がいる家庭は、時期を早く知りたい人が多いと思います。

回答：教育委員会では令和6年度に準備委員会等を設置する予定です。統合する小学校、中学校の施設等をどのような規模で、どのような設備が必要かを検討します。その中で実際の建設の期間、中学校の敷地内に建てることになるとすると、中学校の既存施設を取り壊して建て替える形を取らざるを得ないと考えます。「統合やむなし」のご意見をいただいた場合は、令和5年度末に基本構想を策定させていただき、令和6年度に設置する準備委員会等が立ち上がれば建設のスケジュールが決定されます。遅くとも令和6年度末には新しい小学校の開校日を決定できると考えております。

5. 松久小学校区住民

質問：資料の学級数に特別支援のクラスが含まれていないようですが、今後の子どもたちの多様化や外国籍の児童生徒にも対応できる教員と特別支援のクラスが置けるだけの部屋数を十分に考慮していただけたらと思っています。

回答：特別支援教室は必ず設置するので、必要数は確保できるように建設費用に算定しています。特別支援教室等を含めて、子どもたちのニーズに合った教育を行っていきたいと考えております。

外国籍の児童生徒に対しては、現在は中学校に外国籍の生徒がいますので、通訳の方を会計年度任用職員で採用し、寄り添っていただいています。また、ポケトークの活用や、福祉課で利用しているタブレット使用で通訳の方と直接話ができるツールの活用も検討を進めています。

6. 東児玉小学校区住民

質問：統合後の旧校舎は避難所として利用するとのことですが、将来的にはなくすかもしれないとお話がありました。小学校の校舎は町民にとって貴重な避難所です。避難所としての機能を旧校舎に持たせなくなるとしたら、それに代わる避難所の建設を検討していただかないと町民の大きな問題になると思います。

回答：小学校は防災計画の避難所に指定されており、地域コミュニティにおいても重要な施設となっていることは、こちらでも認識しております。必要な機能が損なわれないように、今後の施設の在り方については関係各課と調整を図りながら検討させていただきたいと考えております。

7. 松久小学校区住民

質問：美里中学校の近辺に新校舎を建設とのことですが、美里中学校と同規模の小学校を建てると考えてよろしいでしょうか。校庭等で結構な土地が必要と思うのですが、そういった土地があるのでしょうか。

回答：美里中学校の体育館、プールは老朽化しています。西側の使っていない特別教室、技術室は解体になります。最初に行うのは体育館の解体と新築です。新しい体育館にはエアコンも入り、基本的には小学校と中学校の体育館は別々になるか、併設となる事が考えられます。近隣の土地を買い増ししないと建てられない事は想定しています。統合が決まった段階でしかるべき時期に土地の手当てをしなければならないと考えています。

8. 松久小学校区住民

質問：「新しい学びに対応した施設」という言葉がありましたが、具体的に新しい学校にはどのような新しい施設ができるのかお聞かせください。

回答：新しい学びに対応した設備としましては、教育のICT化推進があげられます。また、先程話がありましたように図書室を町立図書館にする、学童の併設についても町長が考えています。施設以外にも、世界に羽ばたくために英語教育の充実を図っていきたいと思います。

大沢地区の木を使い、校舎だけでなく体育館も木造化を検討しています。断熱遮熱性効果の高い省エネの設備を導入し、省エネの空気清浄機も含めてのエアコン、照明もLED化という形を想定することになると思います。

一番のこだわりは、給食で炊きたての町内産の米を食べさせる仕組みを

	<p>作りたいと思います。これは炊き出しも兼ねて、炊き立ての米を食べられるような給食室を作った方が良く考えています。</p> <p>また、校外の学習の場として町で何ができるのか、場所によっては公設民営塾といったところもありますので、子どもたちにそういった支援ができる仕組みができた方が良く考えています。</p>
質問	資料に統合することによるデメリットの記載があまりないのですが、資料に書かれていないデメリットや、その解消法があれば教えてください。
回答	<p>クラス替えができないデメリットは、少ない人間で固定した深い人間関係も良いですが、一度崩れるとやはり厳しいものがあります。クラス替えでより多くの人と接点を持ち、社会性を広げることの方が児童の将来にとっても役立つことだと思っておりますので、クラス替えはできた方が良く思います。</p> <p>統合のデメリットとして考えられることはいくつかありますが、教員1名に対する児童の人数が増えるので個別の把握が難しくなります。学校行事において児童1人の個別活動機会の減少等がデメリットです。</p>
質問	資料だとスクールバスは最長30分間となっています。個人の意見ですが、通学に町内で車で30分は長いと感じました。通学時間を短くする術はないのでしょうか。
回答	<p>文科省の統合に関する手引きでは通学時間は「おおむね1時間以内の範囲」とされ、各市町村の児童生徒の実態に合わせて、1時間以上や1時間以内等適宜な判断をすることが適当であるとうたわれています。町としては1時間では長いと思うので、30分以内であれば定義時間の半分でもありますし、児童の皆さんも我慢できる範囲ではないかと思い、30分は適切だとさせていただきました。</p> <p>これは現在の児童分布で設定していますので、統合決定後に準備委員会にて、その時の児童数と児童分布に応じた中でルートの設定をさせていただきたいと考えています。</p>

9. 松久小学校区住民	
質問	将来の児童数で2033年に一度増加し、また下がります。どのようにデータをとったのでしょうか。人口推移の信ぴょう性に疑問があります。
回答	人口の推計はコーホート法という方式で算出しております。出生数や転入転出の実績に応じて計算しています。一時期上がっている数字は実際出生率が上がった時期があり、その実績により将来人口が増えることになっています。
質問	ブレ幅は何%ですか。
回答	ブレ幅は把握していないので後日HPで回答します。

美里町立小学校適正規模・適正配置等に関する説明会 質疑応答

11月26日 東児玉小学校体育館

1. 東児玉小学校区住民	
質問	アンケートの対象世代を詳しく教えてください。
回答	対象は令和3年度に居住する中3から令和3年10月31日生まれまでのお子さんがある保護者が対象です。配布数は729件です。
質問	アンケートは子どもの保護者向けにしたようですが、3つの小学校が無くなってしまふのはかなり美里町内に影響するものだと思います。町民全体にアンケートを実施していただきたかった。町民全体を対象とすれば結果が変わったのではないのでしょうか。
回答	教育委員会としては、現在学校教育に関わりもある、またこれから関わるであろう当事者の方を対象としました。
質問	統合した場合の試算が124億円とありますが、美里町が全て出すのでしょうか。国からの補助金があるのならどれくらい見込めるのか教えてください。
回答	その年に有利な補助金があれば使います。1/2や1/3のものもあります。起債という借入金で交付税として戻ってくるものもあります。その時期に最も有利な補助金や起債を使うことによって、町からの支出は最小限とします。
2. 松久小学校区住民	
質問	統合の時期について、あと10年後位になるのでしょうか。
回答	5年以内を目標として進めたいと思っています。
意見	学習面、生活面、環境面全てにおいて統合しなければだめです。明石市は教育にお金をかけているので、親に費用がかからず人口が増えています。美里町でも子育てを楽にする策、人が集まるような施設を計画していただきたいと思っています。1年でも早く統合することが重要だと思います。
3. 東児玉小学校区住民	
質問	アンケートの結果について「やむを得ない」の7割を賛成とすることに疑問があります。「やむを得ない」は賛成ではないと思います。
回答	「賛成」とはいえませんが、今の状況を見ると「やむを得ない」と答えるしかないと思う人が多いと思います。校舎の老朽化や、大沢小は近い将来複式学級になる見込みです。東児玉小も2学年のみ複数の学級であるという事実もあります。
質問	人口減については、企業誘致等で働き口を確保できなかった政策の失敗にも思えます。

<p>回答：農業投資した地域を農地転用できないことが課題でしたが、役場と駅とICの半径300mは、令和3年3月末に期限が切れて転用が可能になりました。県のスーパーシティプロジェクトに参加することができましたので、県の支援を得ながら産業団地を作るという話をいただいています。多くの地権者のご理解が大前提ですが、それは作りたいと思っています。仮に小学校が統合した場合は、このエリアを拠点として、色々なものを集積させることで、利便性を高めるまちづくりができるようになりました。小学校や中学校に歩いて行ける範囲に住宅地を作ることも可能になります。産業団地を作ることによって雇用も生まれ税収も確保することができます。</p>
<p>質問：今後の児童生徒減少の推計説明がありましたが、今後の移住促進が見込まれていません。子育てにお金がかからない等の施策を進めることが先なのではないでしょうか。移住者定住が進んでいないと思います。</p>
<p>回答：進学した学校の近くで就職し、アパートを借りて暮らすことが多いですが、新幹線通勤でも良いと思います。別アンケートの結果でも、定住促進補助金を理由に町に入ってくる人が少なかったため、新幹線補助等の仕掛けが大切だと考えます。支援等で「この町に住みたい」と思っただけでなく、就職をしたい企業の誘致できっかけをつくるのが大切だと思います。</p> <p>新小学校は木造を検討しています。統合をする場合、新築だと1/2、建て替えだと1/3、付随する施設に1/2補助金をいただけます。町の木を利用すると山もきれいになり、山を観光として利活用する等、人を集める、選んでもらえる仕組みを考えています。小さな町だからこそ、大きなことに挑戦できると捉えています。</p>
<p>質問：小さな町だからできることはあります。町長のやる気、教育長の姿勢の問題によるものだと思います。少子化していくなかで、子どもたちを増やす施策をしてこなかったのはなぜですか。</p>
<p>回答：繰り返しになりますが、農地転用しにくいことが原因です。役場周辺については、小中一貫校の近くに住宅地を作ることも可能になりました。スクールバスもあるので、学校から遠い地域にも需要はあると思います。今までの考え方と、子育て支援の考え方は大きく変わっています。今までの方法ではなく、新たな相乗効果ができる仕掛けを作っていこうと思います。</p>

<p>4. 東児玉小学校区住民</p>	
<p>質問：新幹線補助の話もありましたが、これまで人口が増えてこなかったことは事実です。統合はやむを得ないと思います。現在の集団登下校が機能していないと感じます。スクールバスについては早期に試行的にやってみてはいかがでしょうか。</p>	<p>回答：スクールバスの試行については、統合決定後には早めに手当をしながら</p>

必要に応じて検討します。運転手の不足が予想されるので、できれば町内の方にドライバーを任せ、仕事を新たに作るのが良いと思います。統合が決まりましたら慣らす期間も必要だと思うので、その時に試行を考えたいと思います。

質問：「小中一貫校」の言葉が出ていますが、本来あるべき小中一貫校は、校長1人だと思います。そこも検討しているのでしょうか。

回答：県内の義務教育学校や小中一貫校では、校長1人というところがありますが、規模は大きくありません。規模の違い等条件にもよるので、検討させていただきたいと思います。

5. 松久小学校区住民

質問：美しい里という名前が気に入って実際に引っ越してきました。何よりも将来の教育環境を見てみると20年後の人数推移が367人とかなり子どもの人数が減っていく中で、学校を統合して1つにするというのは、正しいし、個人的には賛成です。ただ、人口が減るのはやむを得ないのですが、子どものいる親としては、子どもの教育が良ければその町に人が引っ越してくると思います。子どもの教育に関しては、まだ私の子どもも中学校に通うので、本庄市よりもより良いものにしていただきたい。後に暮らす子供たちにどうやってバトンタッチをしていくのか、よく考えることなのではないかと思います。

回答：統合の中の大きな目玉は経費が安くなるからだけでなく、1つになって様々な力を結集して教育力をどれだけ上げられていくかが勝負だろうと思っています。先進自治体の戸田市を視察してきました。戸田市で行ったものを町でもやろうと、背伸びをしながら町の子どもたちに最高の教育環境と学力向上のための仕掛けをどうやって作るか、統合すれば学童も近くに必要でしょうし、学童が終わった後にどうするか、例えば全国には公設民営塾のような、役所が民間の塾を開いている地域もあります。また、プログラミング教育等も含めて、今は小さな学校それぞれにハイスペックな機器を入れることは難しいですが、統合することにより、性能の良い機器を入れ、先生も付けられます。少なくとも美里町で育つ子どもたちが最高の環境と教育ができる仕掛けを、小さな町だからこそできることを追求していくことが、統合の大きな柱となると考えています。

6. 松久小学校区住民

意見：統合しないでやっていく方法もなくはないかと思いますが、人口がどんどん減少し続けている中で、美里町で人口が増える可能性はないです。このような状況の中で、このまま3校でいたら、切磋琢磨する機会がなくなり、競争力がなくなってしまいます。複式学級となって1、2年生

が一緒となったら、教員がどう教えるのか。統合したくないという気持ちは分かりますが、子ども達のためには統合しかないのです。統合して、もっと教育環境を改善して良くし、親達の子育てをしやすくし、子育て費用が掛からないように取り組まないと人口も減り、ますます町も厳しい状況になってしまいます。幸い、美里町はスマートインターもでき、新幹線で東京も近く、交通アクセスが良くなっています。大きな企業では家にいながら仕事ができるようになっていきます。住みよい街はどこなのかを考えるようになり、子育ても楽で様々な面で良いから美里町に住んでみようとなり、人口減少を阻止することにも繋がるのではないかと思います。できるだけ早く進めてほしいと思います。

7. 松久小学校区住民

質問：息子が小学校1年生で、娘が2歳で当事者です。同じ年代の参加者が少なく驚きました。前の説明会で、我々のような当事者の参加者はどのくらいいたのでしょうか。当事者となる世代にも、今回の説明会はとどいているのでしょうか？

統合が本決まりするタイミング、その周知のタイミングはいつ頃でしょうか？学校が近いという理由で転入される方もいるかと思っています。住居の選択のタイミング的にも早く知れたら良いと思います。

工業団地を誘致するだけでは弱いのかなと感じます。子育て世代としては、商業施設をつくっていただいたり、小児科が少ないことへの対応等、子育て世代の声を、地元の人たちみんなの声を聞いていただけるような機会をもっと設けていただきたいです。我々のような世代にも周知・説明いただきたいながら進めていただけると良いと思います。

回答：説明会参加者の世代については、受付名簿を作成していないので、はっきりと申し上げられませんが、遺跡の森館説明会時、保護者の方数名から質疑がありました。昨日の森館説明会には43名、本日の大沢小学校体育館には9名参加者がいました。

今回の周知方法は、広報みさと及びLINEにて行いました。また、小中学校の保護者の方には、学校に依頼し通知をお送りさせていただきました。在学生の保護者の方は、全員をご存知だと認識しております。また、ご意見等につきましては、逐一ホームページでお知らせさせていただきますので、ご確認いただきたいです。また、機会を設けまして、パブリックコメント等が必要となる可能性もございますので、そういったところでご意見をいただけるような機会は設けられると考えております。

また、開校の時期につきましては、今年度末に基本計画を作成し、来年度には準備委員会等を設置させていただき、その中で校舎等の規模等を議論していただき、工期が判明していくと思いますので、確定ではないですが、令和6年度末頃には開校日の目途が立つと考えております。そ

<p>の際には、皆様に周知をさせていただきます。</p> <p>商業地については、役場から駅の間を県道西側を商業地にできないか検討しています。農地転用が必要となり、具体的な計画がないとできないものとなります。様々な企業へ働きかけて、スーパーマーケットも興味を示していただいておりますが、その中でも誘致できる企業と相乗効果が出るような仕掛けをどうつくるか、小中一貫校の建設により恐らく商業系も成り立つと考えています。産業団地が県道東側に来年度から着工すれば、働く場所が増え、脱炭素からの観点から公共交通機関を利用することも想定され、駅の北口を考えていかないとはいけません。インターチェンジのアクセス道からすんなり駅の北口に出られるような道が必要となります。そういったことの実施により、相乗効果もでて商業系が成り立つような仕掛けを真剣に考えていけたら良いなと思います。その結果として小児科等がきていただけると考えております。</p> <p>県のスーパーシティプロジェクトに支援をいただきまして、それを実現していきたいと考えております。県の最大補助金5,000万円も含めて、あらゆる手段で町づくりをしていかないと、人口が減っていく要因ともなると考えております。</p>
<p>質問：学童に現状通わせていますが、児童の人数が多く先生たちもいっぱいいっぱいに見えます。働く母親が増えています。そこも含めて、総合的に考えていただきたいです。未就学児世帯の保護者等にも、こういった説明のような、知る機会があっても良いと思います。</p>
<p>回答：学童保育は福祉の担当になりますが、人数が少ないので経営的に厳しくなることを見込まれます。補助金の増額はしておりますが、統合時に恐らく町が施設をお貸しすることを考えなければならないと考えています。はにぼんプラザのような、わが町も集まれる場所のような、学童が終わった後の場所、中学生含めて自主学習をできる場所、保護者が迎えに行ったときに待てるような場所について、相乗効果としては、子どもいられて、教育的にも良い場所、スーパーマーケットのような店が立地する場所を作らざるを得ないだろうと考えております。</p>

<p>8. 松久小学校区住民</p>
<p>質問：説明会に3回出席をしましたが、執行部には、今回の説明会自体の開催が遅いと言いたいです。これは、前教育長の時代から、早く進めていただくよう一般質問でも要望がありましたが「15年後、10年後」と先送りしてきました。議会の一般質問でも「町民全体の説明をしてほしい」と要望しましたが、参加者が少なすぎると感じました。若い世代に話をしなければ進められないと思います。私は統合自体に反対するわけではないです。教育長が良い先生を引っ張れば、良い教育につながると考えており、教職員の労働環境が大切だと考えます。美里中学校の空調を補助金活用により整備した例もあり、やればできるが、時期を待っ</p>

<p>ているだけだと感じます。5か年計画とありますが、町民に対しての説明会をお願いしたいです。町民全体に周知ができていないように感じます。メール及び広報みさとの掲載はありましたが、防災無線での放送を実施していません。</p> <p>子は町の宝だと町長もおっしゃっていますが、産業団地もできて、YKKもできましたが、町民の雇用率が低いです。寄居インターチェンジを降りたら、スーパーマーケット等の商業施設や病院が必要だと思います。計画をきちんと立てて進めていただきたい。</p> <p>参加者が少なく正直がっかりしました。住民が少なくなっただけじゃ遅いと思います。住民主体の町づくりを実施いただきたいです。</p> <p>参加者が少なかったことについて、なぜ周知等がそこまでできなかったか、こういった状況下で今回の参加人数となったか、反省点等もあると思うのでお聞かせいただきたいです。</p>
<p>回答：町民への周知に関しましては、時間帯にもよりますが、防災無線放送による広報については、苦情がある等町民にとって好ましくないといった意見もあるので、自粛をさせていただいております。</p> <p>現在、小中学校に通っている保護者の方には、1人1人通知をお送りさせていただいております。広報みさとやLINE等での周知を実施したことから、町民の方への周知については十分かと考え、控えさせていただいたところでございます。</p> <p>人数につきましては事務局としても少ないと感じましたが、現在役場でとれる方法は全てとらせていただいたと考えています。</p>
<p>質問：やるべきことはやったとおっしゃいましたが、資源回収でも防災無線の放送はしています。時間帯を考慮すれば放送での周知もできたと思います。みんなに分かるように伝えるべきだと思います。入園児の保護者への説明も必要だと感じます。答申が出てすぐ動けばよかった。アンケートの対象者は卒業してしまう。町民に分かるような説明をしてもらわないと、こんな人数で開いたことを広報にのせるのでしょうか。</p>
<p>回答：防災無線等の活用は、こういった機会があれば必要に応じて検討させていただきたいと思います。</p>
<p>質問：保健センターでやれば子供が来るはずですよ。そういった横のつながりも大事にさせていただきたいです。</p>
<p>回答：今回の内容等、進捗状況等は逐一HPに掲載させていただきます。</p>

<p>9. 東児玉小学校区住民</p>	
<p>質問：「統廃合します」が既成事実で、そのことについての説明会だと感じました。そういうことでしょうか。</p>	
<p>回答：町の方針を伝えさせていただき、住民の方からご意見をいただく場を設けました。その中で住民の方のほぼすべてが反対だと分かった時は、町の方針を変えざるを得ないと考えております。今回の説明会につつま</p>	

	<p>しては町民の方はどなたでもご参加いただける形で、保護者や就学前児童保護者を対象とした説明会ではありません。</p>
質問	<p>アンケートでは「賛成」は2割。「やむを得ない」7割の人の気持ちを大切にしてほしいと思います。追加で住民の声を聞く場を設けてほしいと思います。</p>
回答	<p>今後も機会があれば場を設けたいと思いますが、その機会がこの場であり、今回機会をご用意させていただきました。「やむを得ない」の判断につきましては、複式学級等の説明をしたうえでアンケートを実施しています。保護者の方もこのまま行くと、より良い教育が整わないということがほぼ明確になってきているので、そういった中で「やむを得ない」の回答をいただいています。「やむを得ない」といただいた回答に対して、説明してきた教育環境が町で整備ができないとなると、その方たちのご意見を反故にしてしまうという考えを持っております。</p>
質問	<p>統合に疑念を持っている人もたくさんいるし、教育環境を良くしてほしいという意見もありますが、「他の方法はない。統廃合しかない」と言っている説明会です。これでは町民の意見を反映させたとはいえないと思います。町民の声を大切にするのならば、町民の皆さんの意見を反映するものを作っていただきたい。もっと今の3校の中でも充実した教育環境を作ることができるのではないかと思います。いろいろなアイデアが出てくると思います。今日の説明会は「こうやりますからご理解ください」という説明会で、町民の意見を聞いたことにはならないです。</p>
回答	<p>保護者のアンケートは令和3年の10月生まれまでの子どもがいる方で、保育園以下の人も含めてアンケートを取っています。これが多くの人たちのご意見だと思います。町も学校の老朽化の問題で3校を維持するのか、統合で学校を作るのかを考えなければならないので、今までの流れから統合する方向で進めたいと考えています。</p> <p>反対の意見も当然あると思いますが、それも踏まえてどこかで決めなければいけません。それは住民投票なのか、今いただいている子育て世代のご意見なのか、私は子育てをしている世代の意見を中心に検討していきたいと考えています。反対や懸念のご指摘をいただきながら、それを解消できる方法も考えていきたいと思っています。</p> <p>今の3校を維持するよりは、1つの学校にしながらそこにいろいろな力、お金を集中していくということが、これからのこの町づくりには必要だと思っています。</p> <p>アンケートの「やむを得ない」が反対の意味が強いのではないかと懸念のご質問ですが、回答は4択で行なっています。「様々な課題への対応のため統合すべきだ」が21.5%、「様々な課題への対応のために、統合もやむを得ない」が71.1%、「様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない」5.6%、「様々な課題への対応があって</p>

も統合すべきではない」1.4%。そういう意味で4択のうち「どちらかといえはやむを得ない」は、プラス回答と捉えています。

10. 東見玉小学校区住民

意見: 今回の説明会の参加周知対象は全町民、アンケートの対象は子どもたちの保護者関係だけでは、矛盾していると思います。アンケートの時点から町民全体で考えるべきではなかったのでしょうか。

統合準備委員会の今後の流れ**【今後の会議予定】**

第2回 6月下旬～7月上旬

第3回 8月上旬

第4回 9月下旬

第5回 10月下旬

※ただし、協議事項の進捗により、回数減の可能性あります。

【今後の会議内容（予定）】

- ・統合方法について
- ・必要教室数について
- ・特別教室等の構想について
- ・付属施設等の構想について
- ・統合時期について